

平成 27 年度 普及に移す農業技術（第 1 回）

- [分類] 普及技術
[成果名] 移植水稻用中期除草剤マメットSMジャンボは水田雑草防除に有効である
[要約] 移植水稻にマメットSMジャンボを初期除草剤との体系処理（移植後20日からノビエ3.5葉期に50gパックを20個/10a）することで、効果的に水田雑草の防除ができる。
[担当] 農業試験場作物部、農業技術課
[部会] 作物部会

1 背景・ねらい

移植水稻用中期除草剤は、高い除草効果が求められることから実用性を評価した。その結果、有効性が認められたことから、新しく利用できる剤として普及技術とする。

2 成果の内容・特徴

移植水稻に対して初期剤との体系で、中期除草剤マメットSMジャンボを移植後20日からノビエ3.5葉期までに50gパックを20個/10a処理することで、ノビエ等の一年生雑草から多年生雑草まで効果的に水田雑草の防除ができる。

農薬登録内容

マメットSMジャンボ

[一般名および成分含有量] シメトリン4.5%、モリネート24.0%、MCPBエチル2.4%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性] 利用上の留意点を参照する。

[対象作物に対する適用登録状況]（平成27年8月10日現在 JPP-NET 確認）

作物名	適用雑草名	使用方法	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の使用 回数
移植水稻	水田一年生雑草及びウリカワ、ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、アオミドロ・藻類による表層はく離	水田に小包装（パック）のまま投げ入れる	移植後20日～ノビエ3.5葉期（但し、移植後30日まで）	小包装（パック）×20個（1,000g）	1回

3 利用上の留意点

- （1）移植水稻用初期除草剤との体系で使用し、処理時期を失しないように注意する。
- （2）水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- （3）成分としてモリネートを含む剤は魚類に対する慢性毒性が強いことから、「農作物病害虫・雑草防除基準（長野県）」に記載の「モリネート系除草剤供給自主規制地域」では使用しないこと。
- （4）その他の利用上の留意事項は、「平成28年農作物病害虫・雑草防除基準（長野県）」の除草剤の使用方法（中期除草剤）を参照する。

4 対象範囲

県下の水稻作付地域 約 32,000ha のうち、モリネート系除草剤供給自主規制地域以外の地域

5 具体的データ

- （1）平成26年に農業試験場において初期剤との体系で実施した試験では、移植後20日、同30日処理で、ノビエ等一年生雑草から多年生雑草まで高い除草効果が認められた（表1）。薬害は認められなかった。

表1 マメットSMジャンボの雑草防除効果^{a)} (平成26年、農業試験場)

除草剤名	処理時期 ^{b)} 処理量(/10a)	ノビエ	タマガ ヤツリ	一年生 広葉 ^{c)}	マツ バイ	ホタ ルイ	ウリ カワ	(オモ ダカ) ^{d)}	(クログ ワイ) ^{d)}	合計
エリジャン乳 剤→マメット SMジャンボ	+0日→+20日 (5/23→6/12) 300ml→50g×20個	t	0	t	0	0	0	(11)	(2)	t
	+0日→+30日 (5/23→6/22) 300ml→50g×20個	0	0	0	0	t	0	(0)	(9)	t
(比較) エリ ジャン乳剤→ マメットSM 1キロ粒剤	+0日→+20日 (5/23→6/12) 300ml→1kg	0	0	0	0	t	0	(3)	(3)	t
(比較) エリ ジャン乳剤	+0日(5/23)	t	0	5	0	4	54	(115)	(67)	3
無処理	—	213.8	4.8	74.1	0.7	91.8	2.6	19.6	10.2	387.8

a) 除草剤各処理区の数値は対無処理区比(%)。無処理区は乾物重(g/m²)。発生はあるものの、四捨五入で0になる場合は「t」として示した。

b) 処理時期の+は移植後日数。

c) コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計。

d) 括弧内の草種は、調査対象外。

試験方法：試験場所は南信農業試験場水田ほ場(標高560m、洪積土・砂壤土)。品種は「コシヒカリ」。中苗3本植(20.5株/m²)。代かきは5月20日、移植は5月23日。1区7.2m²、2区制。

調査方法：移植42日後(7/2)に50×50cmの枠サンプリングにて調査した。

(2) 平成27年に飯山市の現地ほ場で初期剤との体系で実施した試験では、移植後23日処理で比較剤と同等の高い除草効果が認められた(表2)。薬害は認められなかった。

表2 マメットSMジャンボの雑草防除効果^{a)} (平成27年、農業技術課)

除草剤名	処理時期 ^{b)} 処理量(/10a)	ノビエ	一年生広葉	ホタルイ	合計
農将軍フロアブル→マメットSMジャンボ	+1日→+23日(5/28→ 6/19) 500ml→50g×20個	0	0	0	0
	(比較) 農将軍フロアブル→ビクトリーZ 1キロ粒剤 ^{c)}	+1日→+23日(5/28→ 6/19) 500ml→1kg	0	0	0
無処理	—	1.7	1.1	0.3	3.1

a)、b)は表1と同じ。

c) 比較は、試験区の隣接ほ場で実施。

試験方法：北信農業改良普及センターが実施。試験場所は飯山市外様(標高320m、沖積土・埴壤土)。中苗、機械移植。入水は5月17日、代かきは5月19日、移植は5月27日。1区24a、反復なし。無処理区は、波板で囲い試験区内に設置、1区制。試験区、比較区とも、代かき後、移植前の5月19日(移植8日前)にデルカット乳剤500ml/10aを処理。

調査方法：マメットSMジャンボ処理20日後(7/9)に50×50cmの枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は1カ所の調査を行った。

6 特記事項

[公開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

普通作物の新規農薬等の効果試験、平成26～27年度(2014～2015年度)、協力研究